

長野上水内 図工美術委員会 題材のご紹介

古里小学校 長崎至宏

1. はじめに

私が裾花中学校勤務時に行った、中学2年の題材『仮面に託した思い』は、自分のライフマスクを元に、BOXアートに仕上げました。中学2年生といえば思春期まっただ中。心の中や、未来の自分。2面性のある自分。自分の顔を見つめることに抵抗があるのではないかと、思われますが、実際はそうでもなく生徒たちは楽しんで製作していました。ボックスアートとして中に組み合わせていく物は、自分を表す物そのものだったり、何かに置き換えたりしています。材料を吟味して、ボックスアートとして成立するように、配置も工夫して表していきました。



2. 題材名 『フレフレわたし!がんばれみんな!』

中学生向けの題材を、小学校6年生で行うとしたら…。と考えてみました。6年生の教科書にも、将来の自分を作る題材『12年後の私』があります。そこで〇年後の私を仮面で表すことにしました。

古里小学校では、図工は教科担任制で授業を行っています。この題材では、ちょうど休業期間中の課題でアイデアスケッチまでを終えました。そして分散登校中に顔の型取りを行いました。中学生は自分で型取りを行いましたが、今回は学年全員分を私が行いました。



絵柄がコワイので、みんなパンダにしておきました!

顔の型取りを行ったあと、数回に分けて、仮面の修正を行いました。

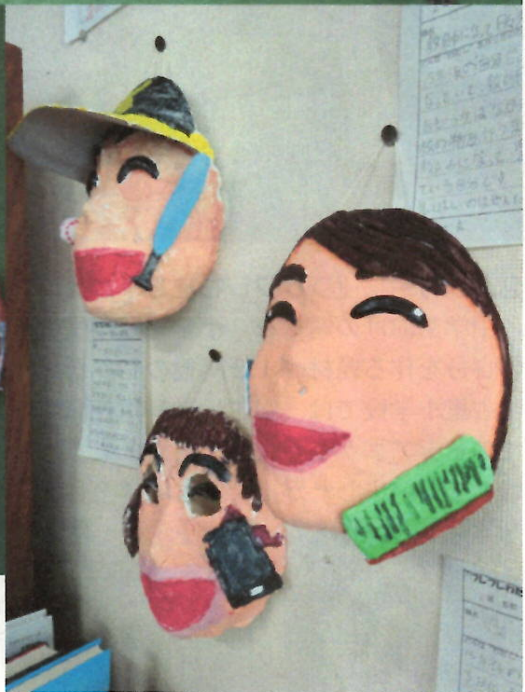
①表裏に木工用ボンドを薄めたものを塗ります。(これによって、力を加えても仮面がボロボロと壊れるのを多少防げ

ます) ②表裏に薄く紙粘土を付けていきます。③回りの形を整えたり、足りない部分を紙粘土で補ったりします。ここまでが、修正と下地作り。それまで多少ゆがんだり崩れてしまっている仮面も、なんとか形になります。

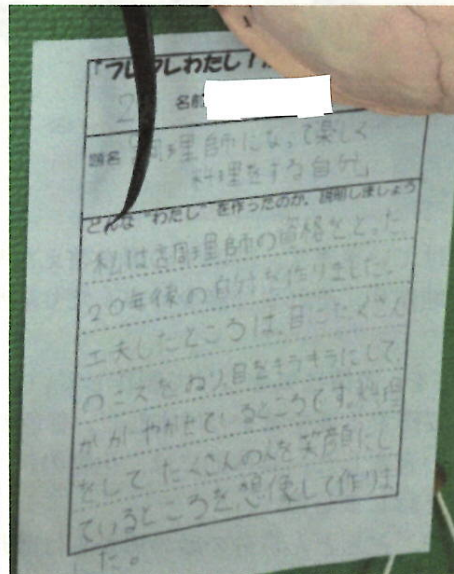
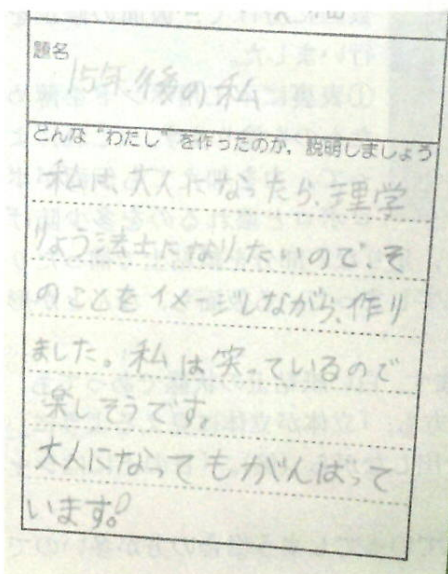
そして実際に髪や目、口、などを、表情に気をつけて製作していきます。白い紙粘土の状態であっても、形状が分かるように、立体的に製作する事を気をつけました。着色の方も、「立体が立体に見えるように」明暗に注目しながら色を着けていきました。具体的には、化粧の例を出しながら(笑)、「目の上にはシャドーを入れるでしょう?」などと話しました。

粘土を盛り付けていきますので、どんどん自分の顔の形からは離れていってしまう場合の方が多いので

すが、作品の土台は自分のライフマスク！、というのが大事なコンセプトなのです(*^_^*)。



表したい自分、が伝わるように、小物を製作し、顔の周りに配置しています。また、目や口の部分にはニスを重ね塗りしてつやを出している子もいます。



今回、題材の前半部分は家庭学習で行い、製作場面を学校で、という形になった。自学自習の観点から考えて、学校でなくても出来る活動は、家庭での学習にふり分けることも考えていく必要があると感じました。題材は、中学美術の表現主題に通じるものであり、6学年で行う題材として、大変有効性を感じました。